

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

| | |
|------|-------|
| 市町村名 | 滝川市 |
| 所属名 | 介護福祉課 |

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|---|---|---|--|------|---|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 虚弱がみられる高齢者が増加するなかで、介護サービスの利用までは要さないが何らかの介護予防の取組が必要と判断される者などに対して、自立支援、介護予防、悪化防止のための介護予防・生活支援サービスの実施が必要となっている。口腔と栄養に関する問題は、自覚症状が低く、状態悪化しからの対応となることが多いため、早期にリスクを捉え適切な対応を取ることが、介護予防・重度化防止には必要である。 | 本市における介護予防・生活支援サービスとして、要支援者、事業対象者の口腔・栄養の機能低下の状況に応じて、栄養士・歯科衛生士が自宅を訪問し、口腔ケアや栄養状態の改善を短期集中的(3~6か月)に行うサービス・活動C(短期集中予防サービス)を実施。 | ○サービス・活動C(短期集中予防サービス) (R5) (R6) (R7) (R8) 実人数 10 10 10 10 延人数 45 60 60 60 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○サービス・活動C(短期集中予防サービス) (R7実績) 実人数 10人 延べ人数 51人 | ○ | ○課題:口腔・栄養アセスメントシートの活用で専門職による早期の課題抽出が進み、ケアマネジャーとの情報共有からサービスへ繋がった。反面 口腔や食生活は日常そのものであるため外部からの介入を「過干渉」と捉えられやすく、本人・家族の拒否感と実際の困り感に乖離があり支援に至らないケースがある。身体機能に比べ改善のメリットが伝わりにくいことも課題である。 ○対応策:対象者への丁寧な動機付けを行うとともに、困り感が生じる前の段階から口腔機能の低下や低栄養リスクについて関心をもってもらえるように、早期の予防啓発や情報発信を強化していく。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 全国的に高齢化が進展するなかで、中空知地域は産炭地として発展してきた歴史的・地理的背景などにより道内でも高齢化率の高い地域となっている。そのため、今後団塊の世代の75歳到達などによりさらに介護サービス給付の増大が予想される状況において、介護予防普及啓発事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 日常生活の機能向上、介護予防意識の向上等を図るため介護予防に関する知識や情報を提供する介護予防講座 | ○介護予防講座の開催 (R5) (R6) (R7) (R8) 開催回数 5 2 25 25 延参加者数 1021 350 350 350 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○介護予防講座の開催 (R7実績) 開催回数 一般向け 17回 通いの場 52回 その他 5回 延参加者数 一般向け 388人 通いの場 985人 その他 99人 | ◎ | ○課題:目標を大きく上回る回数を実施できた。一般向け講座では、どの講座も参加者多数で市民の関心が高いテーマを提供できたが、毎年同じ方が参加する傾向が見受けられた。通いの場では、例年と比較し「詐欺被害防止」や「交通安全講話」などの需要が多かった。その他、町内会や地域団体からも講座の依頼があり、「フレイル予防」や「介護保険の使い方」等のテーマで実施した。 ○対応策:一般向け講座において、これまで講座に興味が無かった方にも参加して頂けるよう、市公式LINEの活用やポスター掲示場所の変更など周知方法を工夫する。通いの場で参加者の需要に応じて講座を実施する他、町内会や市民団体からの講座依頼に対しても積極的に支援を行う。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 全国的に高齢化が進展するなかで、中空知地域は産炭地として発展してきた歴史的・地理的背景などにより道内でも高齢化率の高い地域となっている。そのため、今後団塊の世代の75歳到達などによりさらに介護サービス給付の増大が予想される状況において、介護予防普及啓発事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 運動による体力づくり、転倒予防などの介護予防を促進するため民間の温水プールを活用した水中運動や自宅で継続可能な運動の技術的な指導を実施。 | ○高齢者運動推進事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 実施回数 0 24 24 24 実参加者数 0 20 20 20 延参加者数 0 120 120 120 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○高齢者運動推進事業の実施 (R7実績) 実施回数 24回 実参加者数 37人 延参加者数 359人 | ◎ | ○課題:令和6年度から、高齢者の運動習慣定着のための事業の委託を開始した。体力測定の結果から、参加者の運動機能の向上が見られた。3ヶ月毎に2期実施したが、後期の参加者が少なかった。 ○対応策:参加しやすいよう送迎の工夫や運動継続の実態把握などについて引き続き検討する。新規参加者獲得のため、周知方法の工夫についても検討する。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 全国的に高齢化が進展するなかで、中空知地域は産炭地として発展してきた歴史的・地理的背景などにより道内でも高齢化率の高い地域となっている。そのため、今後団塊の世代の75歳到達などによりさらに介護サービス給付の増大が予想される状況において、介護予防普及啓発事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 低栄養状態の予防、自立した日常生活を推進するため開催する料理作りのつどい | ○料理作りのつどい・地域料理教室の開催 (R5) (R6) (R7) (R8) 料理作りのつどい開催回数 12 12 12 12 地域料理教室開催回数 3 3 3 3 延参加者数 115 132 132 132 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○料理づくりのつどい・地域料理教室の開催 (R7実績) 料理作りのつどい開催回数 12回 地域料理教室開催回数 1回 延参加者数 125人 | ◎ | ○課題:毎月開催している料理づくりのつどいは、毎回異なるテーマを設定しているためリピーターも増え、共食の場としての役割を果たしているが、新規参加者が少ない傾向にある。また、地域に出向いた料理教室も一地区のみの開催だったため、他地区でも実施していく必要がある。 ○対応策:新規の方が参加しやすい雰囲気作りや周知方法の工夫、電話以外でも受付可能とする等実施し、新規参加者を増やしていく。また、地域の実態を確認し、ニーズに応じて料理教室を開催する。 |

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|--|--|---|--|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 全国的に高齢化が進展するなかで、中空知地域は産炭地として発展してきた歴史的・地理的背景などにより道内でも高齢化率の高い地域となっている。そのため、今後団塊の世代の75歳到達などによりさらに介護サービス給付の増大が予想される状況において、介護予防普及啓発事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 健康維持と介護予防において重要な口腔機能を低下させないため市内老人クラブ等を対象として口腔内観察、健康講話、口腔ケアなどを実施する高齢者口腔ケア教室 | ○高齢者口腔ケア教室の開催 (R5) (R6) (R7) (R8) 開催回数 13 12 12 12 延参加者数 206 170 170 170 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○高齢者口腔ケア教室の開催 (R7年度) 開催回数 12回 延参加者数 163人 | ◎ | ○課題:口腔乾燥や嚥下等の機能低下に関する相談が増加傾向にある。比較的元気な老人クラブ等の参加者へ早い段階から予防啓発を行い、機能低下が引き起こす要介護リスクの知識を身につけてもらう必要がある。 ○対応策:「お口の元気度チェック」を活用して点数化することで、可視化され機能低下を自分ごととして身近に捉えてもらい、効果的な動機付けに繋げる。また、各老人クラブの傾向を把握し、地域ごとにより具体的な支援策を検討し実施していく。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 全国的に高齢化が進展するなかで、中空知地域は産炭地として発展してきた歴史的・地理的背景などにより道内でも高齢化率の高い地域となっている。そのため、今後団塊の世代の75歳到達などによりさらに介護サービス給付の増大が予想される状況において、介護予防普及啓発事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 介護予防・健康増進等を支援するため身近な場所で看護師による専門的な健康相談を受ける機会を提供する老人クラブ巡回相談 | ○老人クラブ巡回相談の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 実施回数 106 90 90 90 延参加者数 1193 1000 1000 1000 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○老人クラブ巡回相談の実施 (R7実績) 実施回数 113人 延参加者数 1,181人 | ◎ | ○課題:実施回数・延参加者数ともに、昨年度とほぼ同じで目標以上であった。年々、平均年齢が高くなっている。 ○対応策:高齢者がフレイルなどの虚弱な状況になる可能性があるため、今後も老人クラブ参加者が健康を維持できるよう健康教育を実施しつつ健康面などの個別支援を行う。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化の進展に伴い虚弱がみられる高齢者が増加するなかで、閉じこもり解消のために外出機会を要する者や、介護サービスの利用までは要さないが何らかの介護予防の取組が必要と判断される者などに対して、自立支援、介護予防、悪化防止のための介護予防・生活支援サービスの実施が必要となっている。 | 閉じこもりの防止や介護予防のため、週1回の有効な外出機会として、通所による運動機能の向上、栄養改善、口腔機能の向上、参加者の交流促進を図る。 | ○一般介護予防事業(ますますげんき教室)の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 実施回数 80 80 80 80 実参加者数 30 30 30 30 延参加者数 800 840 840 840 介護予防講座 開催回数 2 - - - 延参加者数 20 - - - 栄養講座 開催回数 0 - - - 延参加者数 0 - - - 歯科講座 開催回数 2 - - - 延参加者数 20 - - - 屋外活動 開催回数 2 - - - 延参加者数 20 - - - ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○一般介護予防事業(ますますげんき教室)の実施(R7実績) 実施回数 78 実参加者数 31 延参加者数 855 介護予防講座 開催回数 4 延参加者数 45 栄養講座 開催回数 0 延参加者数 0 歯科講座 開催回数 4 延参加者数 46 屋外活動 開催回数 2 延参加者数 22 | ○ | ○課題:一般介護予防事業として介護認定の有無に関わらず外出機会の少ない虚弱高齢者を対象に実施している。継続的な運動機会を提供することで、介護予防および介護給付費の抑制に寄与している。しかし、現在は定員に達しており、新規参加者の受け入れが困難であることが課題である。 ○対応策:受け入れ制限を行った人数や待機者の状況を詳細に把握・整理し、地域の体操教室をはじめとする他サービスへの移行に向けた検討材料を収集する。 地域体操教室を担当する作業療法士と連携しながら、スムーズなサービス移行と地域での継続的な運動機会の確保を目指す。 |

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|---|--|--|---|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 2025年に向けた地域包括ケアシステムの構築を進める上で、地域における介護予防拠点・住民主体の通いの場の整備及びその推進が重要視されているところである。本市において重要な地域資源となっている「地域体操教室(いきいき百歳体操教室)」のさらなる推進や、高齢者による各種社会参加活動の支援・拡充等を図ることにより、高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止のための取組を効果的に推進していく必要があると考えられる。 | 地域における介護予防拠点・住民主体の通いの場として、「いきいき百歳体操サポーター養成講座」を修了したサポーター(ボランティア)が中心となり、町内会、老人クラブなどと協力して、各種体操(運動機能、口腔機能、認知機能低下予防)や茶話会などのサロン活動等を行う地域体操教室(いきいき百歳体操教室)の運営支援事業 | ○地域体操教室(いきいき百歳体操教室)の開催 (R5) (R6) (R7) (R8) 開催地区数 26 27 28 28 延実施回数 1196 1240 1280 1280 参加者実人数 470 490 500 500 参加者延人数 15128 10000 10000 10000 サポーター実人数 172 170 170 170 サポーター延人数 6181 5000 5000 5000 ○いきいき百歳体操交流大会の開催 各会場の90歳以上の表彰を実施 90歳以上表彰者 5 5 5 5 参加者数 73 100 100 100 ○サポーター養成講座の開催 講座開催回数 2 2 2 2 実参加者数 15 15 15 15 修了者総数 326 341 356 371 ○サポーター情報交換・学習会の開催 開催回数 2 2 2 2 延参加者数 89 50 50 50 | (R7実績) ○地域体操教室(いきいき百歳体操教室)の開催 開催地区数 26カ所 延実施回数 1,214回 参加者実人数 501人 参加者延人数 16,177人 サポーター実人数 162人 サポーター延人数 6,019人 ○いきいき百歳体操交流大会の開催 90歳以上表彰者 大会1人 会場7人 参加者数 74人 ○サポーター養成講座の開催 講座開催回数 2回 実参加者数 7人(市民) 修了者総数 341人(市民) ※R5:15人 R6: 8人 ○サポーター情報交換・学習会の開催 開催回数 2回 延参加者数 108人 | ◎ | ○課題 実施会場数に変動はないが、参加者サポーターの数は減少傾向にある。参加者サポーターの年齢層は高くなっており、新規参加数よりも、体調不良等で参加できなくなったり介護保険サービスに移行したりする人数が上回っている状況と思われる。 地区により高齢化や体調不良等でサポーターが減少している会場があり、今後の実施に影響が出る可能性がある。 ○対応策 介護予防の効果として、通いの場の拡大により高齢者の介護予防につながることから、今後もいきいき百歳体操の啓蒙啓発、サポーターの養成に取り組む。また、今後も会場での講座や体力測定などを行い、予防できる取り組みを実施する。同時に、熱中症の予防など季節に応じた健康管理についても情報共有を行う。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 2025年度までを期限として地域包括ケアシステムの構築を進める上で、地域における介護予防拠点・住民主体の通いの場の整備及びその推進が重要視されているところである。本市において重要な地域資源となっている「地域体操教室(いきいき百歳体操教室)」のさらなる推進や、高齢者による各種社会参加活動の支援・拡充等を図ることにより、高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止のための取組を効果的に推進していく必要があると考えられる。 | 高齢者の社会参加活動と介護予防活動を通じた地域における介護予防の推進を図るためボランティア活動を行った者や地域体操教室の参加者に対し、活動に応じたポイントを付与し、還元を行う支えあいいきいきポイント事業 | ○支えあいいきいきポイント事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 支えあいポイント登録者数 277 270 270 280 いきいきポイント登録者数 519 650 700 750 施設等登録件数 56 56 56 57 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○支えあいいきいきポイント事業の実施 (R7実績) 支えあいポイント登録者数 274 いきいきポイント登録者数 550 施設等登録件数 56 | ◎ | 制度開始以降、介護予防の効果的な事業として定着してきている。参加者の高齢化という課題はあるが、比較的若い世代の参加者増に向け、ボランティアセンター関係者及びいきいき百歳体操教室関係者との検討会議等を行い、令和4年度より支えあいポイントの登録者の対象年齢を65歳以上から40歳以上に拡大したほか令和5年度からは要介護認定を受けている者も事業の対象としたことにより、総登録者数は増加傾向にある。今後も適宜事業の見直しや周知を行いながら事業を継続する。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 2025年度までを期限として地域包括ケアシステムの構築を進める上で、地域における介護予防拠点・住民主体の通いの場の整備及びその推進が重要視されているところである。本市において重要な地域資源となっている「地域体操教室(いきいき百歳体操教室)」のさらなる推進や、高齢者による各種社会参加活動の支援・拡充等を図ることにより、高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止のための取組を効果的に推進していく必要があると考えられる。 | 高齢者の外出機会の拡大と社会参加活動を促進し、高齢者の生きがいづくりと健康の維持・増進に資するため老人クラブが行う道路、公園、公共施設等の花壇づくりや草刈り、清掃等の環境整備活動を支援する生きがいと健康づくり事業 | ○生きがいと健康づくり事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 参加クラブ数 14 14 14 15 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○生きがいと健康づくり事業の実施 (R7実績) 参加クラブ数 13 | ○ | ○課題:市内老人クラブの解散により、参加クラブ数を維持することが困難になりつつある。 ○対応策:老人クラブ連合会と連携のうえ、参加クラブ数の確保に努めるとともに、クラブが解散しても参加したい方もいるので、現存クラブの紹介など、クラブ会員の確保も図っていく。 |

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|---|---|---|---|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 2025年度までを期限として地域包括ケアシステムの構築を進める上で、地域における介護予防拠点・住民主体の通いの場の整備及びその推進が重要視されているところである。本市において重要な地域資源となっている「地域体操教室(いきいき百歳体操教室)」のさらなる推進や、高齢者による各種社会参加活動の支援・拡充等を図ることにより、高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止のための取組を効果的に推進していく必要があると考えられる。 | 65歳以上の要支援・要介護認定を受けていない高齢者で、生活の改善や体調の調整のため、一時的に施設入所が必要な方に対し、短期間(最大7日間)の施設入所を支援する自立支援短期宿泊事業 | ○自立支援短期宿泊事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 利用者数 0 1 1 1 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○自立支援短期宿泊事業の実施 (R7実績) 利用者数 0 | △ | 今後も継続して実施するが、条件に沿った利用希望者からの申請がほぼ無いため、事業の必要性などについても引き続き検討を行う。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、特に高齢者単身世帯や認知症高齢者の増加が顕著となっている。これら高齢者は、問題の露見が遅れ深刻化につながりやすいことから、関係機関や地域との連携の上で積極的に状況の把握を行い、早期に各種サービスを紹介するなど、対応が必要となっている。 | 保健・医療・福祉の関係部門と連携し、以下のような機会を活用して、基本チェックリストを用いて介護予防が必要と思われる高齢者の健康状態などを把握し、地域体操教室やますますげんき教室、歯科検診・相談、栄養相談や料理教室の紹介などを実施 ・75歳以上で介護サービスを利用していない在宅高齢者の訪問調査 ・介護予防講座や温泉健康セミナーなどの参加者 ・本人や家族からの窓口や電話での相談 ・主治医や民生委員など関係機関や地域からの提供情報 ・要介護認定における非該当者の情報 | ○介護予防把握事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 基本チェックリスト実施数 1,000 1,000 1,000 1,000 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○介護予防把握事業の実施 (R7実績) 基本チェックリスト実施数 1,092 | ○ | ○課題:75歳以上の人口増加が進み、全数把握に時間を要し、調査間隔が長期化している。 調査用紙配布時に回収日を伝え、回収時に聞き取りを行う方法でより効率的に調査を行っている。 対応策:市や地域包括支援センターによる把握のほか、他部署との連携、見守り安心ネットワーク協力団体の協力による緩やかな見守り体制の充実を図りながら、より一層の早期発見・対応に努める。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化や核家族化、人口減少などを背景とした社会の世帯構造の変化が著しい状況下において、要介護者のみならず家族介護者を含めて、安心してその人らしい生活を継続できるようにするため、家族介護者の精神的・身体的・経済的負担を軽減するための家族介護者支援事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 介護者の心身のリフレッシュを図り介護負担の軽減につなげるため開催する介護者サロン | ○介護者サロンの開催 (R5) (R6) (R7) (R8) 開催回数 3 4 4 4 延参加者数 103 120 120 120 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○介護者サロンの開催 (R7実績) 実施回数 4 延参加者数 123 | ○ | ○課題:ケアマネジャーからの紹介も少なく新規参加者が減少している。参加者は被介護者を看取った介護経験者も含めて、交流により介護者としての思いの表出・共感につながっている。送迎のためのバスの確保が難しくなり、場合により職員が公用車で送迎することもある。 ○対応策:介護者が参加しやすく要望に沿った内容となるよう、ケアマネジャーへの聞き取りなどを行いながら、再度内容や実施方法を検討していく。チームオレンジや介護経験者の協力を得て、被介護者と一緒に参加でき、介護者が思いを吐き出せる体制を維持する。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 地域包括ケアシステムの構築を進める上で、リハビリテーションに関与する専門的知見を有する者が高齢者の有する能力を評価し改善可能性の助言や、地域ケア会議・介護職員などへの技術的助言などの地域リハビリテーション活動支援事業の実施が、高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止のための取組を効果的に推進していく必要があると考えられる。 | リハビリテーション専門職が地域ケア会議に参加し、日常生活に支障のある生活行為の要因、改善方法など介護予防ケアマネジメントに対する助言を行う | 地域ケア会議における専門的助言 (R5) (R6) (R7) (R8) 自立支援サポート会議 薬剤師 11 12 12 12 理学療法士 11 12 12 12 作業療法士 11 12 12 12 歯科衛生士 11 12 12 12 栄養士 11 12 12 12 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | 地域ケア会議における専門的助言 (R7実績) 自立支援サポート会議 薬剤師 10 理学療法士 10 作業療法士 10 歯科衛生士 10 栄養士 10 | ◎ | ○課題 地域ケア会議を実施することで、地域の課題について、政策や取り組みに繋げることが難しい。リハビリテーションに関与する専門職の参加は計画どおり実施できている。 地域ケア会議に他職種が参加することで、通常の支援における連携が深まっている。 ○対応策 地域の課題となる事案(例えば身寄りの無い高齢者など)について検討するなど、第10期に向けて準備をする。 |

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|--|---|--|---|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 地域包括ケアシステムの構築を進める上で、リハビリテーションに関する専門的知見を有する者が高齢者の有する能力を評価し改善可能性の助言や、地域ケア会議・介護職員などへの技術的助言などの地域リハビリテーション活動支援事業の実施が、高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止のための取組を効果的に推進していく必要があると考えられる。 | 居宅支援事業所などからの依頼や相談により、要介護認定の有無にかかわらず高齢者世帯へより積極的に家庭訪問を行い、本人・家族・関係介護職などに対し、作業療法士、歯科衛生士、栄養士が訪問などにより専門的助言を行う | 訪問などによる専門的助言 (R5) (R6) (R7) (R8) 作業療法士 227 150 150 150 歯科衛生士 54 80 80 80 栄養士 60 40 40 40 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | 訪問などによる専門的助言 (R7実績) 作業療法士 のべ 144件 理学療法士 のべ 69件 歯科衛生士 のべ 71件 栄養士 のべ 28件 | ◎ | ○課題: R7年度から新規に理学療法士が配置されたこともあり、リハ専門職の訪問は計画よりも多い結果であった。歯科衛生士の訪問は概ね目標値に近い数値となった。R7年度は栄養士の欠員等があり目標値に到達できなかった。 ○対応策: 介護認定の有無にかかわらず、今後も在宅生活の維持や自立支援のために専門職の関与を継続する。居宅支援事業所のケアマネジャーに対し、専門職の訪問について周知を強化していく。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 口腔機能の維持・向上、生活習慣病予防等の健康教育と介護予防との間には密接な関係性があることから、保健師、歯科衛生士などの専門職による訪問調査・指導など健康づくりからのアプローチによる介護予防を進めていく必要があると考えられる。 | 心身に障がいがあり歯科治療や歯科指導を受けることが困難な者に対し、口腔機能の維持・向上を図るため、介護サービス事業所等との連携及び歯科医師会の協力により訪問実態調査、口腔衛生指導、歯科検診等を実施する障がい者等歯科保健医療サービス推進事業 | ○障がい者等歯科保健医療サービス推進事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 訪問実態調査 30 20 20 20 訪問口腔衛生指導 85 60 60 60 訪問歯科検診 0 1 1 1 ※R5は実績 R6以降は目標値 | ○障がい者等歯科保健医療サービス推進事業の実施 (R7実績) 訪問実態調査 33件 訪問口腔衛生指導 81件 訪問歯科検診 0件 | ◎ | ○課題: 口腔・栄養アセスメントシートの導入を機に軽度者の訪問依頼が増加した。一方、受診困難や咀嚼困難になってからの相談も多く、対応が難しい。口腔の違和感の放置は機能低下や低栄養のリスクを高めるため、軽度うちトラブルを解決する必要がある。 ○対応策: 介護支援専門員と情報共有し、ケースや家族に困り感がなくてもアセスメントシート上問題がある場合は、歯科訪問に繋げてもらうように連携する。地区担当保健師や一体化訪問担当看護師などと引き続き情報共有に努める。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 口腔機能の維持・向上、生活習慣病予防等の健康教育と介護予防との間には密接な関係性があることから、保健師、歯科衛生士などの専門職による訪問調査・指導など健康づくりからのアプローチによる介護予防を進めていく必要があると考えられる。 | 生活習慣病や要介護状態等の予防、健康づくりの知識の普及を図るため、若壮年期からの健康の保持・増進を目的として各種健康教育を実施する生活習慣病予防・介護予防に関する健康教育事業 | ○ヘルシーエクササイズの実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 回数 50 43 43 43 延人数 2348 2600 2600 2600 ○依頼による健康教室の開催 開催回数 7 5 5 5 延参加者数 368 120 120 120 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | (R7実績) ○ヘルシーエクササイズの実施 回数 49回 延人数 2,541人 ○依頼による健康教育の開催 開催回数 3回 延参加者数 45人 | ◎ | ○ヘルシーエクササイズ 課題: 前年度同様、体力測定結果における片足立ちの記録が低い傾向にある。参加者アンケートより、腰痛・膝痛を抱えている方が多い。 ○対応策: 運動開始時などミニ講話やエクササイズの正しい運動の仕方の説明(特にバランスを維持する筋力に関わる運動)、介護予防講座などを通して情報提供しつつ、日々の変化をつけ継続参加につなげる。 ○依頼による健康教室の開催 継続して実施する。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 口腔機能の維持・向上、生活習慣病予防等の健康教育と介護予防との間には密接な関係性があることから、保健師、歯科衛生士などの専門職による訪問調査・指導など健康づくりからのアプローチによる介護予防を進めていく必要があると考えられる。 | 健康相談や健康診査などにより発見された療養上の保健指導が必要な高齢者・その家族を訪問し、健康に関する問題の総合的把握や必要な指導を行う生活習慣病予防・介護予防のための訪問指導事業 | ○生活習慣病予防・介護予防のための訪問指導の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 40～64歳 46 25 25 25 65～69歳 30 50 50 50 70歳以上 205 175 175 175 計 281 180 180 180 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○生活習慣病予防・介護予防のための訪問指導の実施 (R7年度実績) 40～64歳 37件 65～69歳 29件 70歳以上 152件 計 218件 | ○ | 課題: 訪問件数は前年度より減少しているが、訪問対象の基準該当となるものが減少している。 ○対応策: 優先順位を決め、継続した保健指導の実施により、訪問対象となる者の減少との結果が出ている。今後も継続した実施に加え、訪問件数の更なる増加のため、対象者の抽出基準等を検討していく。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 高齢者単身世帯に対し乳酸菌飲料の配達と安否確認を実施する独居老人友愛訪問サービス事業 | ○独居老人友愛訪問サービス事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 利用世帯数(月平均) 93 95 98 100 延実施回数 20467 21990 22680 23140 | ○独居老人友愛訪問サービス事業の実施 (R7実績) 利用世帯数(月平均) 75 延実施回数 17,421 | ○ | 独居老人の安否確認として、事業内容をPRしながら、引き続き事業を継続していく。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 食生活の改善が必要な高齢者世帯に対して、定期的に居宅を訪問し安否確認を行うとともに、栄養バランスの取れた食事を提供する食の自立支援事業 | ○食の自立支援事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 利用人数(月平均) 108 97 100 100 延実施回数 17366 18420 18990 18990 | ○食の自立支援事業の実施 (R7実績) 利用世帯数(月平均) 99 延実施回数 19,639 | ◎ | 高齢者の食生活の改善と、夕食の配達による安否確認として、事業内容をPRしながら、引き続き事業を継続していく。高齢者が在宅での生活を継続するにあたり、栄養バランスの摂れた食事は重要であり高ニーズが高くなっている反面、食材費等の高騰から、財政面での負担が増加している。 |

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|--|---|--|---|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 高齢者世帯に対する冬期間の在宅生活支援のため、居宅に除雪事業者を派遣する福祉除雪ヘルパーサービス事業及び地域団体に小型除雪機を貸与するコミュニティ除雪事業 | ○福祉除雪ヘルパーサービス事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 利用世帯数 327 340 340 340 延実施回数 8301 8600 8600 8600 ○コミュニティ除雪事業の実施 貸与団体数 3 3 3 3 | ○福祉除雪ヘルパーサービス事業の実施 (R7実績) 利用世帯数 300 延実施回数 7,538 ○コミュニティ除雪事業の実施 (R7実績) 貸与団体数 3 | ◎ | 緊急時の避難通路を確保する除雪ということで、通常の除雪と勘違いされるケースもあるが、事業内容をPRしながら今後も事業を継続していく。事業の実施にあたり、除雪の担い手不足や燃料費等の上昇が課題となっている。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 高齢者世帯に対し緊急時に在宅生活支援のため消防署に通報する装置の貸与を行う緊急通報システム整備事業 | ○緊急通報システム整備事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 延貸与者数 998 1116 1116 1140 月平均貸与者数 83 93 93 93 | ○緊急通報システム整備事業の実施 (R7実績) 延貸与者数 845 月平均貸与者数 70 | ○ | 貸与者数が減少傾向にあるが、在宅生活を安心して過ごすため、今後も継続して実施し、制度の周知に努める。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 高齢者世帯に対し緊急時に備えかかりつけ医、緊急連絡先等を記載し冷蔵庫等に貼付する情報キットの配布を行う救急医療情報キット配付事業 | ○救急医療情報キット配付事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 配付世帯数(新規) 18 70 70 70 | ○救急医療情報キット配付事業の実施 (R7実績) 配付世帯数(新規) 16 | △ | 配布希望世帯数が減少傾向にあるが、高齢者世帯の緊急時に備えた必需品であり、広報誌や町内会の班回覧などを利用し配布の拡大に努めていく。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 高齢者世帯に対し緊急時の連絡手段を確保するため電話加入権の貸与を行う老人福祉電話貸与事業 | ○老人福祉電話貸与事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 延利用者数 36 36 36 36 月平均貸与者数 3 3 3 3 | ○老人福祉電話貸与事業の実施 (R7実績) 延利用者数 12 月平均貸与者数 1 | △ | 携帯電話の普及等により、新規の需要が無くなってきたため、現在の利用者への貸与が終了次第事業の廃止を予定する。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 老人特定目的住宅に入居している高齢者世帯に対し朝夕の安否確認や緊急時の対応等のサービスを提供する老人特定目的住宅安否確認事業 | ○老人特定目的住宅安否確認事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 延利用件数 521 540 540 540 延確認回数 19944 19170 19170 19170 | ○老人特定目的住宅安否確認事業の実施 (R7実績) 延利用件数 487 延確認回数 18,024 | ○ | 今後も継続して実施する。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | はいかひの心配のある高齢者に対しGPS等による位置探索システム導入初期費用の一部を助成するはいかひ高齢者等位置探索システム助成事業 | ○はいかひ高齢者等位置探索システム助成事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 利用者数 0 2 2 2 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○はいかひ高齢者等位置探索システム助成事業の実施 (R7実績) 新規申請者数 0 | × | ○課題: 端末(発信機)の携行が必要となるため、対象者の症状や身体状況によっては機器の装着や持ち歩きを拒否されるなど、利用が難しい場合がある。 ○対応策: 今後も事業は継続する。機器の情報収集を行い、情報提供できるようにする。 |

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|--|--|---|--|------|--|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 要介護認定等の結果が「非該当」であった者のうち転倒の危険性が高い高齢者に対し福祉用具購入及び住宅改修費用の一部を給付する自立支援用具購入費等給付事業 | ○自立支援用具購入費等給付事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 利用件数 0 2 2 2 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○自立支援用具購入費等給付事業の実施 (R7実績) 利用件数 0 | × | ○課題:要介護認定の結果が「非該当」と判定された方のうち、転倒の危険性が高い方が対象となる事業であり、必要性の高い方については概ね要介護認定が該当するため、利用希望者が少ない事業である。 ○対応策:引き続き地域包括支援センター等の関係機関との連携を図り、制度の周知及び利用希望者の把握に努める。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化が進展するなかで、高齢者単身世帯や高齢者夫婦世帯、認知症高齢者などの増加が顕著となっている。このような状況において、高齢者の安否確認を含めた各種生活支援のための事業の重要性がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 介護保険施設又は医療機関等に入所している要介護認定者等に対し在宅復帰に向けた外泊のために必要な福祉用具・医療用具の貸与及び訪問介護費用の一部を給付する一時帰宅支援費給付事業 | ○一時帰宅支援費給付事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 利用件数 0 2 2 2 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○一時帰宅支援費給付事業の実施 (R7実績) 利用件数 1 | ○ | ○課題:既に介護保険施設又は医療機関に入所等している要介護認定者が自宅ででの生活に復帰するための支援であるため、対象者が少なく、利用者の予測もつきにくい事業である。 ○対応策:引き続き医療機関等との連携を図り、制度の周知及び利用希望者の把握に努める。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化や核家族化、人口減少などを背景とした社会の世帯構造の変化が著しい状況下において、要介護者のみならず家族介護者を含めて、安心してその人らしい生活を継続できるようにするため、家族介護者の精神的・身体的・経済的負担を軽減するための家族介護者支援事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 要介護度3以上の認定を受けた排尿・排便全介助の要介護者を在宅で介護する家族等に対し介護用品を支給する家族介護用品支給事業 | ○家族介護用品支給事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 受給者数 15 16 16 16 利用枚数 417 650 650 650 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○家族介護用品支給事業の実施 (R7実績) 受給者数 10 利用枚数 437 | ○ | ○課題:国の交付金対象となる地域支援事業としては事業の廃止・縮小を指示されており、現在は保健福祉事業として実施しているが、引き続き今後の事業継続について検討を要する。 ○対応策:令和3年7月支給分より対象介護用品の見直しを行い、「常時失禁等が認められる要介護者の排泄の介助」に要する介護用品に限定した。要介護者の在宅生活を支える介護者を支援するため、今後も事業を継続するとともに、啓発啓蒙に努める。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 高齢化や核家族化、人口減少などを背景とした社会の世帯構造の変化が著しい状況下において、要介護者のみならず家族介護者を含めて、安心してその人らしい生活を継続できるようにするため、家族介護者の精神的・身体的・経済的負担を軽減するための家族介護者支援事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 要介護度3以上の認定を受けた寝たきり等により移動が困難な要介護者に対しリフト付きタクシー等の利用料を助成するリフト付きタクシー等利用料助成事業 | ○リフト付きタクシー等利用料助成事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 受給者数 16 15 15 16 助成額 157,300 190,000 190,000 190,000 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○リフト付きタクシー等利用料助成事業の実施 (R7実績) 受給者数 8 助成額 119 | ○ | ○課題:家族介護用品支給事業と同様に利用者数は減少傾向であり、家族介護用品支給事業の今後の方向性と併せて事業の在り方を検討する必要がある。 ○対応策:寝たきり等で移動が困難な高齢者の在宅生活を支援するため、今後も事業を継続するとともに、啓発啓蒙に努める。 |
| 滝川市 | ①自立支援・介護予防・重度化防止 | 介護予防・重度化防止のための取組を効果的に推進していくため、医療、介護等の多職種参加のもと、自立支援や介護予防の観点を踏まえ高齢者のQOL(生活の質)の向上につながるケアマネジメントを行うことが必要。 | 薬剤師・理学療法士等専門職が助言者として参加する、自立支援型サポート会議 | ○自立支援型地域ケア会議の開催 (R5) (R6) (R7) (R8) 開催回数 11 12 12 12 検討事例数 22 24 24 24 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○自立支援型地域ケア会議の開催 (R7実績) 開催回数 10 検討事例数 20 | ◎ | ○課題:介入早期のよくなる事例の検討とし、現行の事例資料や会議の進め方で事例提供者の負担の軽減と議論の活性化につながった。課題に対する専門職からの助言は、事例提供者のみならず参加者全体の資質向上につながっている。 ○対応策:継続して会議を開催し、よくなる事例の検討から他の事例にもつながる対応の検討、地域課題の明確化へつなげていく。 |
| 滝川市 | ②給付適正化 | 高齢化の進展による社会保障費の増大が見込まれるなかで、利用者に対する適切な介護サービスを確保するとともに、介護給付費や介護保険料の増大を抑制することを通じて持続可能な介護保険制度の構築に資することを目的とする介護給付の適正化事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 要介護認定の判定において重要な判断材料となる認定調査票の事後点検等を行う要介護認定の適正化事業 | ○要介護認定の適正化事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 点検実施率 100 100 100 100 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○要介護認定の適正化事業の実施 (R7実績) 点検実施率 100 | ◎ | 今後も継続して実施する。 |

| 保険者名 | 第9期介護保険事業計画に記載の内容 | | | | R7年度(年度末実績) | | |
|------|-------------------|--|---|--|---|------|---|
| | 区分 | 現状と課題 | 第9期における具体的な取組 | 目標 (事業内容、指標等) | 実施内容 | 自己評価 | 課題と対応策 |
| 滝川市 | ②給付適正化 | 高齢化の進展による社会保障費の増大が見込まれるなかで、利用者に対する適切な介護サービスを確保するとともに、介護給付費や介護保険料の増大を抑制することを通じて持続可能な介護保険制度の構築に資することを目的とする介護給付の適正化事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | ケアプランが適切なプロセスを踏まえ「自立支援」に資するケアプランになっているかの検証・確認や面談等によるケアマネジメントの質の向上を図るケアプラン点検事業 | ○ケアプラン点検事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 点検・面談 11 11 12 11 ※R6までは実績値、R7以降は目標値 | ○ケアプラン点検事業の実施 (R7実績) 点検・面談 9 | ◎ | 今後も継続して実施する。 |
| 滝川市 | ②給付適正化 | 高齢化の進展による社会保障費の増大が見込まれるなかで、利用者に対する適切な介護サービスを確保するとともに、介護給付費や介護保険料の増大を抑制することを通じて持続可能な介護保険制度の構築に資することを目的とする介護給付の適正化事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 住宅改修に係る施工前後の審査及び訪問調査による確認並びに福祉用具購入に係る理由書審査及び聞き取りによる確認・指導等を行う住宅改修・福祉用具購入点検事業 | ○住宅改修・福祉用具購入点検事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 住宅改修点検 100 100 100 100 福祉用具購入点検 100 100 100 100 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○住宅改修・福祉用具購入点検事業の実施 (R7実績) 住宅改修点検 100 福祉用具購入点検 100 | ◎ | 今後も継続して実施する。 |
| 滝川市 | ②給付適正化 | 高齢化の進展による社会保障費の増大が見込まれるなかで、利用者に対する適切な介護サービスを確保するとともに、介護給付費や介護保険料の増大を抑制することを通じて持続可能な介護保険制度の構築に資することを目的とする介護給付の適正化事業の意義がますます高まっているところであり、より一層の推進が必要となっている。 | 自分が利用したサービスに係る介護保険給付額、自己負担額等を通知することにより適切なサービス利用の啓発等を図る介護給付費通知事業 | ○介護給付費通知事業の実施 (R5) (R6) (R7) (R8) 給付費通知発送回数 1 1 1 1 ※R5は実績値、R6以降は目標値 | ○介護給付費通知事業の実施 (R7実績) 給付費通知発送回数 1 | ◎ | 介護給付費通知事業は給付適正化事業から除外されたため、全体発送は令和6年度までとし、今後は希望者のみ発行する。 |